



ヨゼフ アベイヤ司教認可
発行所 福岡司教本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人
カトリック福岡司教区
編集人 浦川 務
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 1部70円

8・9月の意向

- 【教皇の意向】(8月) 都会での福音宣教
- (9月) 水資源への配慮
- 【日本の教会】(8月) 世界の平和
- (9月) 難民移住移動者

2020年に広島にて

ヨゼフ・アベイヤ司教(福岡教区長)



ともに生きる世界を求めて

朝、宿舎から私は街の一部を眺めています。75年前のこの朝、多くの人々が激化する戦争の苦しみを感ぜながら、戦争の最前線で戦う家族のだからのこを案じていたでしょう。多くの家族は朝食を共にし、新たな一日を始め、再び平和な日々が訪れることを待ち望んでいたに違いありません。

毎年8月6日、日本の司教たちが広島に集まり、平和を祈り、戦争のない世界と核兵器廃絶の実現のために働く決意を新たにします。原爆の75周年の2020年に、広島で記した想いを皆さんと分かち合いたいと思います。戦争の愚かさや平和の尊さに対する確信を深めるきっかけになれば幸いです。

午前8時15分、恐ろしい爆発が多くの人々の命を奪い、人類の歴史に消えることのない傷跡を残しました。科学はそれまで知られていなかった破壊力を持つ兵器を生み出したのです。戦争の不条理は想像できない極限に達しました。あらゆるものが戦争という破壊的な論理に従属させられ、人間の尊厳と生命の尊さが見失われてしまいました。窓から広島街を眺めながら、

福岡教区創立 100 周年に向けて

「シノドス的」な教会の歩みを推し進めましょう
2027年7月16日
教区創立記念日まであと 349 日
2026年7月～2027年7月
テーマ：出向いて行く教会となる

教区創立 100 周年記念 教区報紙面投稿募集!

文章は400字程度を目安に募集しています。短い一言メッセージや、写真・イラスト、ちょっとした思い出話(100字～200字程度)でも大歓迎。

第2回募集期間 9月30日(水)まで

- テーマ：1. 私の信仰生活ストーリー
- 2. 私の誇りの仕事・奉仕
- 3. 100年の中の10年の私
- 4. 教区や教会の名物〇〇

応募先 E-mail: cdf-kouhou@nifty.com
(郵送) 福岡市中央区浄水通6-28 司教館 広報部

福岡教区主催 平和を祈る集い

8月11日(火・祝) カテドラル大名町教会

【午前の部 10時～12時】 展示企画

【午後の部 13時～16時】 講演会

テーマ：「教会と平和、憲法と平和60年、80年、そして100年」

講話 南野森氏(九州大学法学部教授) 西新教会信徒

・平和祈願インターナショナル・ミサ

主司式 ヨゼフ・アベイヤ司教

※ライブ配信有り。詳細は上記QRコードから。



アベイヤ司教による荘厳な祝福

暖められた大気は上昇気流を生む。もしかすると信徒のシャツやバツジをまとった300人を超える信徒が朝10



教区100周年 ロゴマーク

福岡教区創立100周年 3年目の歩みミサ

拡がる「恵みの時」

熱い想いが、遙か洋上の高気圧を呼び寄せてしまったのかも知れない。梅雨明けの最初の主日である7月12日、久留米は記録的な猛暑となった。その日、ヨゼフ・アベイヤ司教、青木悟神父(久留米教会)、ジュゼッペ・ピアッツィ二神父(聖マリア病院チャプレン)による「福岡教区創立100周年3年目の歩みミサ」には、それぞれにイメージカラーのシャツやバツジをまとった300人を超える信徒が朝10

時からの司教司式ミサを目指して久留米教会に集まった。ミサの1時間ほど前からはロザリオの祈りが捧げられ、アヴェ・マリアの祈りの中、座る場所を探して立ちつくす子ども連れの夫婦を、案内係の腕章をつけた担当の方々が手際よく導いていた。本来の意図とは違っているのだから、一部の信徒にとっては久留米教会へ「出向いて行く」ものとなり、久留米教会にとつては「迎える教会」となったのではないだろうか。

駅から歩いてきたという到着して間もない司教は、祭壇へまっすぐ向かう身廊に敷き詰められた赤いカーペットの入口付近に立ち、ひざ元で無邪気に遊ぶ幼い子どもを気づかいながら異なる国の言葉が飛び交う聖堂の景色を目にし、独り言のようにこう口にしました。「これが福岡教区、いえ日本の教会の未来の姿です」

説教の冒頭、司教は日本語と英語による次のような短い挨拶を述べた。「今日はすべての福岡教区の教会で同じ説教が語られます。それは私自身の福岡教区のみならず、100周年の準備の3年目の初めに向けたメッセージです」。さらに「100周年の祝いの準備期間は恵みの時です」と続け、「この恵みを開かれた心で受け止め、それに具体的に応えなければならぬ」と呼びかけた。

ミサはアベイヤ司教の「主のみ名がいつもたえられますように」という荘厳な祝福で幕を閉じた。久留米教会のみならず、準備ならびに当日の心のこもったサポートに、この場をお借りして感謝をお伝えしたい。おつかれさまでした。そして、ありがとうございました。

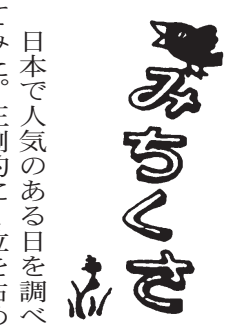
時の話題

信仰の種が芽吹く時を願って

キラキラと光る海の上を、ザパーンと波を切り分けながら進む海上タクシー。潮の香りと水しぶきを受けながら、私は初めて(五島列島の) 福江島を離れ、小学生の頃、夏の教会キャンプでこのことです。

現在3人の子どもの母となり、教会学校のリーダーも務めています。我が子がミサに行きたがらない姿を見ると、かつての自分と重なり、無理強いではなくっていいと思います。

大名町教会 豊嶋幸恵



日本で人気のある日を調べてみた。圧倒的に1位を占めるのは元日である。なるほど、これは納得がいく。2位以下は調査元によって順位が入れ替わるようだが、ベスト10にクリスマスやバレンタインデー、それにハロウィンが登場してくるものの、残念ながらイースターは出てこない。一方、世界ではどうかというところ。イースターは10位以内に入ってくる。なぜ日本ではイースターが定着しないのだろうか。一番の理由は移動祝祭日であるからだという。イースターは「春分の日」を過ぎた最初の満月の次の日曜日」ということになっていて、クリスマスやバレンタインデーのように何月の何日というわけにはいかない。これでは毎年決まった日へ向けての企画を立てづらいということらしい。▼次の理由は日本の年度末から新年度との時期が重なっているからということのようだ。何かと忙しい上に、律儀に花見を欠かすこともできず、イベント満載で余裕がないのかもしれない。▼もちろん日本ではキリスト教的な考えが理解されにくいということもあるようだが、クリスマスやバレンタインデーの意味を知っている日本人がどれほどいるのかを考えると理由としては希薄のような気がする。要は盛り上げ方なのだろう。世の中が盛り上がりたがる。然と人気は出てくるものなのかもしれない。▼さて、福岡教区はといえば創立100周年を盛り上げている真っ最中だ。当たり前の話だが創立から来年の7月16日を迎えるまで100年待ったのである。この最初で最後のチャンス逃すわけにはいかない(T)

総合建築業

- ・一般住宅（新築・改築工事）
- ・鉄骨工事
- ・RC工事

建築の事なら何でもお気軽にご相談ください

有限会社 **森山工務店**

ヨゼフ 森山新太郎

福岡市早良区四箇1丁目15番28号

☎ (092) 811-7265

筑後地区宣教司牧評議会主催 信徒研修会
派遣された私たちの使命



聖堂での分かち合いの様子

て良かった！という喜びや情熱の大切さであり、エマオへの道でイエスに出会った弟子たちのように私たちが信者の心が燃えていないと出向いても人々に伝

7月12日に筑後地区信徒研修会が久留米教会で行われ、アベイヤ司教様が教区創立100周年の準備、3年目にあたり「出向いて行く教会となる」をテーマに講演された。

100人を超す参加者が司教様の講話をうかがい、「一人を教会に誘った経験」等について、数人のグループごとに分かち合った。各々、様々な背景で福音に触れて受洗し、周囲への恵みを伝えることに苦戦しながらも努力し続けていることがよく分かった。

100周年を迎える準備の最後の年にあたり、「出向いて行く」ための力となる「みことばに養われる」ことの大切さとそのための具体的な機会を設けること、「より多くの人々に福音に触れる機会をつくる」ために生活における私たち自身の証しだけではなく、SNS等の現代の情報発信の活用、最後に「様々な活動を通して神が望まれている

社会を築くために」善意ある人々との連携の必要性について

て熱く私たちに語られた。久留米教会 向江英子

福岡地区青年会
初木曜日に会おう神様



アベイヤ司教司式による初木曜日のミサの様子

供するために、大名町教会の小聖堂で毎月第一木曜日の午後7時に聖歌練習を始め、午後7時30分にロザリオ、午後8時にミサを行うことにしました。

毎月の会合の中で、この日のロザリオとミサの意向を決め、その意向のために皆で祈ります。ロザリオは5人の先唱者を決め、一人一連ずつ先唱します。意外にもロザリオをやったことがない若者が多かったです。この機会にロザリオの唱え方を知ることができ、その後もロザリオを続ける若者が増えていきます。

ミサの司式は毎回同じ司祭が行うわけではないので、現代の人々は、急速に変化しているこの時代のスピードに合わせるために、日々忙しい生活を送っています。そんな日常の中で、自分の社会生活と信仰生活のバランスを取ることが決して簡単なことではありません。

福岡地区青年会は、若者たちが神様の懐で少しでも休める時間、自分の信仰生活を維持し発展させられる時間を提

分の小教区の司祭の説教だけでなく、様々な司祭の多様なスタイルの説教も聞くことが出来ます。ミサの後、お茶を飲みながらその日の福音の分かち合いと自分の日常について話し合い、締めくくります。

この集まりは若者だけでなく、誰でも参加できます。たとえ月に1度でも、この集まりを通じて多くの方が忙しい日常の中で神様と共に少し休むことが出来る霊的な時間、自分の信仰を守る時間を過ごせることを願っています。

福岡地区青年会担当司祭ルカ・ジョン・ソックン神父（箱崎教会）

北九州地区カトリック幼児教育連盟教職員研修会
祈ること・心の呼吸



分かち合いで語り合う100人余りの参加者たち

北九州地区カトリック幼児教育連盟教職員研修会が6月20日にカトリック小倉教会を会場に開催された。この日は朝からの雨であったが、北九州地区内の園から100人余りの教職員が集まった。

オリエンテーション後に、アベイヤ司教の講演があった。テーマは「祈ること。心の呼吸」で、参加者が理解で

きるように語られた。各園は祈ることから始まり、祈りをもつて終わる保育を行っているが、司教は「祈りの根本は神への賛美や感謝、ゆるしと願いであり、子どもの心が祈りによって豊かになり、神とともに生き、生かされることを実感できるようにする。更には、祈る習慣によって、自分の歩く道を支えてくれる力になる」など、祈りの大切さを聖書を用いて話された。

中ほどで、「分かち合い」があり、各園での祈りの実態や講話からの学びが語られた。参加者は、「表面的ではなく、心から祈ることの大切さやすべてを知り、すべてを与えてくださっている神様の存在を改めて感じました。学んだことを保育に生かしていきたいです」と話していた。また、「カトリックの園に勤めだして、祈りをするこ

なったが、初めは戸惑いがあった。講話を聴いて、一人で祈ることや子どもたちと祈ることは心を整えたり、潤してくれる貴重な恵みだと気づきました」と語っていた。

昼食後、聖堂でミサが行われた。地区内園のチャプレン司祭2人が共同司式で加わり、荘厳な祈りの場になった。参加者一同、豊かな恵みの一日をくださった神に感謝した。

終わって外に出ると、日の光が差し込み、皆の顔を明るく照らしていた。

北九州地区カトリック幼児教育連盟 代表 下町豊重神父（行橋・豊津教会）

計報

ヴァレリオ・アンザネッロ神父
(聖ザベリオ宣教会)



7月11日帰天。享年93。
1932年12月31日、イタリア・トレヴィーゾ生まれ。
1945年ザベリオ会に入会。
1950年に初誓願、1954年終生誓願を経て、1958年3月22日、イタリ

暑い夏になると福島の子どもたちとご家族と、福岡で一緒に過ごした時間を思い出します。

2011年3月11日、東日本大震災が発生。私たちは報道される地震・津波の映像に目を疑い、直後の福島原発事故や放射性物質の拡散に恐怖を感じました。福岡地区女性の会はすぐ各小教区に呼びかけ、仮設住宅などで開かれていたサロンヘタオル、子供服、裁縫道具、着物等を送りました。

福島家族支援活動「博多にきんしゃ〜い」から得たもの〜愛・希望〜

その後、福島から避難して来た親子の話を聞き、被災地を訪問。被災者・避難者を支援する団体（カリタス南相馬、南相馬こどものつばさ、きらきら星ネットワーク等）にお会いし、私たちに何ができるかを話し合い福島家族支援「博多にきんしゃ〜い」プロジェクトを始めました。

この活動では「福島に家族が放射性物質への不安から少しでも解放され、子どもたちはのびのびと遊び、親御さんにはゆっくりとした時間を過ごしていただく」ことを目標に掲げ、ご家族の要望を伺いながら福岡教区の各小教区や青年たちに協力をお願いしました。そして、司教や司祭をはじめ、多くのボランティアの皆さんに支えられ、年代や地域、教区の枠を超えたつながりの中で福島親子を6回迎えることができました。最初なじみなかった子どもたちや親御さんも、ボランティアの皆さんの笑顔に、そして青年たちのあふれる愛情に迎えられ、手作りの食事（バーベキューや流しそうめんなど）、花火、海水浴などを楽しみ、笑顔あふれる3泊4日を過ごしていただきました。

しかし2020年コロナ禍により活動を休止せざるをえなくなりました。2025年10月にカリタス南相馬を訪ねると、復興は進む一方、今なお放射性物質の影響が残る地域もあり、息の長い支援の必要性をあらためて実感しました。

このたび、福島家族支援実行委員会「博多にきんしゃ〜い」を一区切りとすることにしました。しかし、子どもたちや家族の笑顔は私たちの宝物であり希望の明かりです。皆様から頂いた「愛」を忘れず「希望」をもって笑顔のある社会を目指し、小さな歩みを続けたいと思います。

福島家族支援実行委員会一同



子どもたち、そして司祭たちにも大人気だった糸島の海で

ア・ピアチエンツァにて司祭叙階。
叙階直後、日本へ派遣され、1984年まで関西や宮崎にて奉仕に従事された。

1984年〜1989年イタリアに帰国し、母院の院長などを務めた後、再び来日。関西、そして福岡教区では2011年〜2016年島崎教会、2016年〜2018年玉名・荒尾教会で司牧協力。2018年〜2019年は菊池・山鹿教会で主任司祭として働かれ、近年は泉佐野において司牧の奉仕に協力しておられた。

カトリックの教会葬
共に祈り・共に送る



株式会社
みこころ舎

旧カトリック神学院 旧修道院 内

問合せ
050-3032-1333



Nagasaki Spaghetti
長崎スパゲッティ
Since 1883

株式会社サンフリード ド・ロさま麺工場
長崎市西出津町2528-1
TEL(0959)23-0610
FAX(0959)23-0611

右記URLから
ご注文できます



年間目標

「出向いて行く教会」
となる

真命山諸宗教対話センター - 祈りの集い -

年間テーマ：祈りの人々と出会う「主は御自分の親しい人に御旨を示される」(詩編25・14)

日 時：9月10日(木) 10時～15時 ※8月は休み
内 容：ヨブ：神の神秘において神を認める
「あなたのことを耳にしていました」

次 回：10月8日(木) 10時～15時
内 容：聖フランシスコ：すべての造られたものと祈る人「いと高き、全能の、善い主」

問合わせ先：真命山諸宗教対話センター

☎0968・85・3100 FAX 0968・85・3186

熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

E-mail shinmeizan@gmail.com

☆個人またはグループでの黙想会、研修会も歓迎いたします(要予約)

カリタスのとサポートセンター報告会

〔講 師〕片岡義博神父(のとサポートセンター長)

〔日 時〕8月29日(土) 14時～

〔場 所〕カテドラル大名町教会 1階講堂

〔参加費〕無料(能登支援募金を行います)

〔主 催〕福岡カリタス

〔問合せ先〕☎092・621・2969 吉塚教会

テゼ共同の歌を味わう 夏の黙想会
～連帯・和解・平和～

テゼの曲を YouTube 録音する企画も合わせて開催

〔日 時〕8月28日(金)～29日(土)

〔場 所〕・黙想会と宿泊(※宿泊は任意)

大濠カトリック会館

・録音会場

日本福音ルーテル箱崎教会

〔参加費〕500円(食事は各自・宿泊費別途2000円)

〔申込み・詳細〕上記QRコードから ※〆切り 8月21日

〔主 催〕教区宣教養成委員会



秋の講演会のお知らせ

隣人を愛する活動 38年の歩みと未来
誰もが幸せになれる「希望のまち」をつくる

〔講 師〕奥田知志牧師(NPO法人抱樸理事長)

〔日 時〕9月5日(土) 14時～16時

〔場 所〕カテドラル大名町教会 1階講堂

〔参加費〕無料(自由献金)

〔主 催〕教区いのち・平和・人権委員会

正義と平和・人権部門

〔問合せ先〕☎080・1732・2744 原山

人生は幸せと悲しみが混じった河ではないでしょうか
～人生は山あり谷ありですね～

〔講 師〕Sr. 高木慶子(援助修道会)

〔日 時〕9月21日(月・祝) 14時～16時

〔場 所〕カテドラル大名町教会 大聖堂

〔参加費〕無料(自由献金)

〔主 催〕教区宣教養成委員会

〔問合せ先〕☎092・741・3687 大名町教会

今私たちに問われていること
前教皇フランシスコの『兄弟のみなさん』を読む

〔講 師〕梶山義夫神父(イエズス会司祭)

〔日 時〕10月12日(月・祝) 14時～16時

〔場 所〕大濠カトリック会館 宣教養成センター

〔参加費〕無料(自由献金)

〔主 催〕教区いのち・平和・人権委員会

正義と平和・人権部門

〔問合せ先〕☎090・9853・2806 高瀬



一 召命を共に祈る会 一 ※8月は休会

福岡地区 9月15日(火) 13時30分～ 大名町教会
〔問合せ先〕☎090・6422・2257 (山口)

北九州地区 9月12日(土) 14時～ 小倉教会
〔問合せ先〕☎0949・24・9905 (藤井)

熊本地区 9月未定
〔問合せ先〕☎096・352・3030 (手取教会)

一 各種団体の定例会・その他催し 一

詳細につきましては、福岡教区ホームページ「教区報8月号」、または
右記 QR コードからご確認ください。



福岡教区広報室アドレス

https://fukuoka.catholic.jp

E-mail: cdf-kouhou@nifty.com



8月のこよみ

案 内 板

会合と催し

9月のこよみ

2日(日) 年間第18主日
美野島司牧センター・スペイン語ミサ司式
大名町教会・英語ミサ司式
5日(水) SH委員会 広島教区平和祈願祭(～6日 広島)
6日(木) 主の変容 日本カトリック平和旬間(～15日)
7日(金) 福岡教区カトリック学校連盟研修会
9日(日) 年間第19主日 浄水通教会司牧訪問
11日(火) 福岡教区主催 平和を祈る集い(大名町教会)
15日(土) 聖母の被昇天
16日(日) 年間第20主日 茶山教会司牧訪問
18日(火) 佐賀地区幼児教育連盟研修会
19日(水) 宗教法人幼稚園研修会(大名町教会)
21日(金) 学校法人福岡カトリック学園教諭研修会
22日(土) 天の元后聖母マリア
福岡地区カトリック女性の会・聖モニカ祭
(大名町教会)
23日(日) 年間第21主日 大名町教会司牧訪問
25日(火) 明治学園・講話
30日(日) 年間第22主日 老司教会司牧訪問
■ゴシックは司教日程

日本カトリック平和旬間 8月6日～15日
すべてのいのちを守るための月間
◇心を合わせて祈り、 9月1日～10月4日
日々の歩みを振り返る機会といたしましょう◇

業務お休みのお知らせ

教区本部事務局 8月13日(木)～16日(日)

教区報10月号の発行日について

教区報10月号は9月30日に発送予定です。

集いの詳細は、
各問合せ先に
お尋ねください。

■美野島司牧センター
ホームレスの方に温かい食
事と衣類 毎週火曜日10時
○ホームレス支援炊き出し
第2・4金曜日
調理14時から 夜回り21時
路上からアパートに入居し
た方を訪問 第2土曜日14時
〔問合せ先〕☎092・431・
6765 大濠カトリック会館

1419 ジョンソン・デソー
ザ神父
■大濠カトリック会館・宣教
養成センター
○ミニアサロン大濠
第1・第3水曜日10時
〔問合せ先〕☎092・753・
6765 角田
○みことばのお弁当
2026年度「幸いの宣言」
第4水曜日10時
〔問合せ先〕☎092・753・
6765 大濠カトリック会館

く平和への祈りと心の叫び
くおきな写真と絵画二人展
〔日時〕8月20日(木)～8月
25日(火)〔場所〕福岡アジア
美術館(福岡市地下鉄中洲川
端駅直結)(共催)福岡教区
いのち・平和・人
権委員会 正義と
平和人権部門
○講演会「私たちは何を振り、
何を描いているのか？」
〔日時〕8月22日(土) 14時
16時30分〔場所〕同美術館8

階あじびホール※各入場無料
〔問合せ先〕☎070・65
94・5716 増井
94・5716 増井
■「聖フランチェスコ帰天8
00年記念特別聖年」を記念
して「フランチェスコとキ
アラの道行」森田貴博(油絵)
& 平井栄美(版画)二人展
(期間)9月29日(火)～10月4
日(日)聖フランチェスコ記念
日まで〔場所〕熊本県立美術館
分館ギャラリー(内容)聖フ
ランチェスコと聖キアラの生

9月号は休刊です。

厳しい暑さが続く夏。「命に
関わる暑さ」という言葉を耳
にするたび、原爆が投下され
た広島・長崎で、焼けつく熱の
中、水を求めてさまよった人々
の苦しみに想いが及びます。
平和と旬間を迎えた今、命の
尊さをあらためて心に刻み、
一日も早い世界の平和を祈り
続けたいと思います。(W)

編集後記

涯とアッシジの風景(油絵・版
画を展示)〔問合せ先〕☎0
0・5083・3993 平井
0・5083・3993 平井
■いつくしみ深い御父を語る
集い〔日時〕8月7日(金)15
時～ミサ(場所)笹丘教会問合
せ先☎092・211・2552
1(平和の元后聖母マリアの集い)

1日(火) すべてのいのちを守るための月間(10月4日まで)
教区顧問会
4日(金) 日本カトリック児童施設協会・全国会議(北九州)
6日(日) 年間第23主日 被造物を大切に世界祈願日
吉塚・箱崎教会司牧訪問
教区創立100周年委員会
8日(火) 聖母マリアの誕生
13日(日) 年間第24主日 笹丘教会司牧訪問
14日(月) 十字架称賛
15日(火) 教区全司祭集会
20日(日) 年間第25主日
祖父母と高齢者のための世界祈願日
小郡司牧センター司牧訪問
21日(月) 高槻・シスターの終生誓願式(大阪)
27日(日) 年間第26主日 世界難民移住移動者の日(献金)
不動山殉教者記念ミサ(佐賀教会)
30日(水) 司教協議会総会(～10月1日 東京)

【10月】
4日(日) 年間第27主日
二日市教会・創立75周年記念感謝のミサ
■ゴシックは司教日程

一 和田墓地 開放日 一 ミサと納骨式はありません

開 放 日：8月13日(木)～15日(土) 10時～15時

問合わせ先：☎080-2771-6554 福岡教区納骨堂委員会

※福岡教区で奉仕された司祭の帰天日は右記
QRコード、または教区ホームページのカ
レンダーでご確認ください。



ようこそ福岡教区へ！

マリオ・ピアチェレ神父(聖ザベリオ宣教会)

My name is Piacere Mario. I was born in northern Italy near Venice (Vicenza Province) in 1944 and baptized on the 8th October. I joined the Society of Saint Francis Xavier for Foreign Missions (Xaverian Missionary Fathers) and made my First Religious Profession in 1962. I was ordained as priest in 1971 in Scotland (near Glasgow). Why Scotland? Because at 20 years of age my Superiors sent me there with a few other Professed students since the Congregation was opening there a Theology House. So after one year of language in Glasgow, I studied theology in the Archdiocesan Seminary for 5 years, and after Ordination I worked in our Junior College there for another 6 years. It was my first impact with a foreign culture and it has been challenging. From espresso coffee to tea, from wine to beer and whisky (by the way, I really am enjoying the re-run of Massan on NHK), from spaghetti and pizza to minced mutton meat and tatties, and fish and chips. As a young priest, often I celebrated Mass in a prison for youngsters. I enjoyed working with lay people, from whom I had great support for our missionary activities. It was a time when I learnt how Catholics had to strive to live faithfully in a mainly Protestant environment, and I took part in various events of the newly starting ecumenical movement.

I arrived in Japan in 1979, so I have been living and working here for about 47 years. Why Japan? When I was in the 2nd year of Middle school I witnessed a deeply moving scene: the meeting and farewell between my father and his two younger brothers, both of them Xaverian Missionary Fathers. One was just back from China where he had been for 15 years, the other one was leaving for Japan. It was then that I felt I wanted to become a missionary. My uncle wrote to me beautiful things about this Country (tea ceremony, the gardens, the cherry blossoms, calligraphy, kimono, haiku) and so raised my interest for Japan. When asked by my Superiors about my preferences for a Mission land, the obvious answer was JAPAN. Most of my missionary activity (about 35 years) has been in Miyazaki province, Oita diocese. Working as parish priest and /or director of kindergarten, I did my best to talk of Jesus and lead people to Jesus. In the kindergarten I held regular study session on religious subjects for the mothers. In the church I encouraged the communities to organize events to which non-Christians could take part (e.g. concerts, talks, Mass under the daikon radish scaffolding). In my sixties I joined the local ground-golf club and the go club.

(...continued)

マリオ神父様



福岡教区セクハラ対応窓口

セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談
ください。ひとりで悩まず、早めに相談

セクシュアル・ハラスメント相談窓口

電話 080-2694-4182

受付時間 月～金(祝日を除く)

10:00～12:00 13:00～16:00